

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL www.t-s-r.co.jp

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSRビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

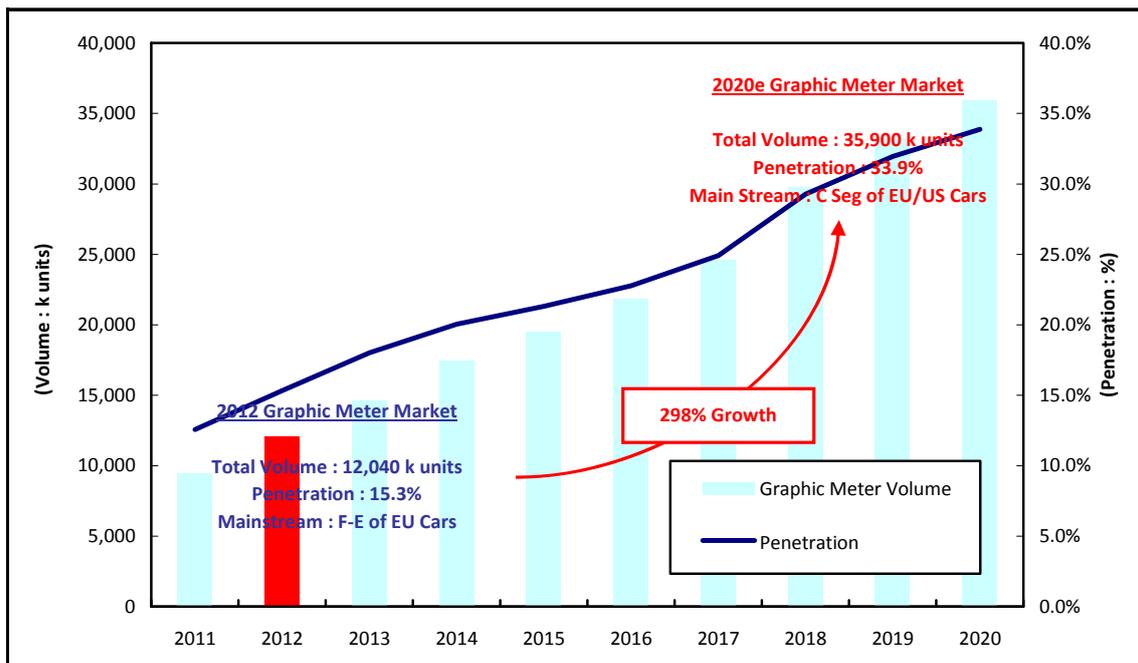
自動車メーター市場の将来予測を発表

- 液晶ディスプレイ(Active LCD)を搭載した次世代メーターとなるグラフィックメーター市場が拡大へ -

株式会社テクノ・システム・リサーチは、『Next Generation Cockpit Display Systems for Automotive 2012-2013』を
 発刊し、2012年の自動車用メーターに関する市場規模を発表致しました。現行自動車メーターに対して、次世代メ
 ーターとなるアクティブ型LCDを搭載したグラフィックメーター市場が急成長しております。

2012年の自動車用グラフィックメーター市場の数量規模は前年からの成長率が127.8%の約12,040 k unitsに伸
 張し、金額規模においては約3,838 M USDとなった。現在、グラフィックメーターを搭載している車種は、F-E
 Segmentが中心となっているものの、今後はD-C Segmentへ波及する見通しとなっており、2020年にはメーター市場
 全体の約33.9%を占めるまで成長する見通しとなっている。

【自動車用グラフィックメーター市場の数量規模推移】

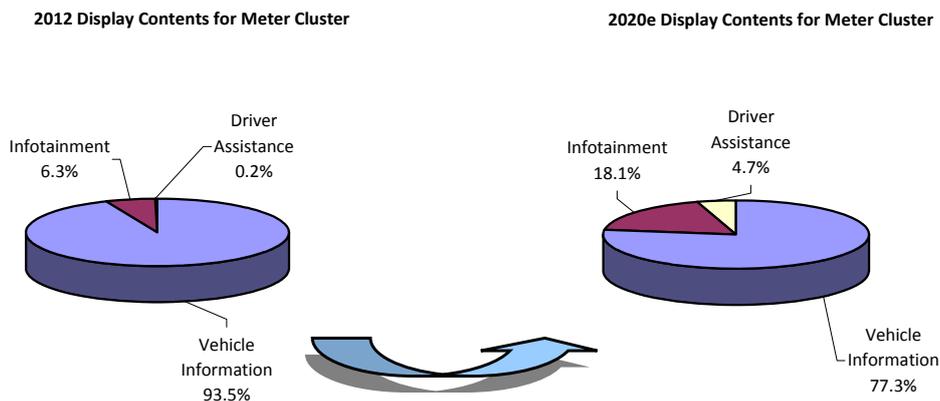


【次世代グラフィックメーター市場の拡大背景と表示コンテンツの変化】

次世代メーターとなるグラフィックメーター市場が拡大する背景として、自動車先進安全システム機能の搭載や通信状況の変化等が要因となって、今後自動車取得する情報量が増大する点に関係している。その取得した情報をドライバーへ伝達する際、現行メーターではサポート出来る表示コンテンツに限界があると指摘されており、同課題への対策の一環として、アクティブ型 LCD の搭載が検討されている。また、グラフィックメーターの搭載により、車室内ディスプレイ数が増えることで、安全走行に影響を与えるドライバーディストラクションの緩和を目的として各ディスプレイ(メータークラスター、ヘッドアップディスプレイ (HUD)、センターインフォメーションディスプレイ(CID))における表示コンテンツの振り分けが自動車メーカーを中心として、模索されている。

一方、自動車メーターにおける表示コンテンツの変化として、従来のメーターに搭載されていたセグメント液晶では、ディスプレイへの表示コンテンツは積算計やギアシフト等のテキストベースで表示可能となる車体情報が中心となっていた。ドットマトリクス液晶を採用したメーターになると、アイコンベースでのコンテンツ表示が追加となっている。燃費情報や半ドア警報等の車体情報表示の範囲拡大や LKA(Lane Keeping Assist System)や TPMS(Tire Pressure Monitoring System)等の一部安全システムの表示を可能とした。さらに、アクティブ液晶を採用したグラフィックメーターでは、3D グラフィックの表示も可能となる為、既存のコンテンツを運転者より直感的に伝達することが可能となる。また、追加される表示コンテンツとしては現在自動車へ急速に搭載され始めている車載カメラの画像表示も可能となる。

【自動車用メーターにおける表示コンテンツの変化】



※ 詳細につきましては、下記までお問い合わせください。

【リリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

第1グループ 木村 隼一 (kimura@t-s-r.co.jp)

Tel: 03-3851-5651